

大阪大学図書館報

Vol. 16, No. 2 June 1982

目次

- | | |
|-------------------------|-------------|
| ○図書館用電算機はACOSシステム450と決定 | ○いちょう祭展示会開催 |
| ○附属図書館薬学部分館27年 | ○教官著作寄贈図書 |
| ○昭和56年度貸出統計から | ○会 議 |
| ○昭和56年度国立大学等図書館間 | ○日 程 |
| 文献複写実績について | ○館内の動き |
| ○海外文献複写の依頼・受付 | ○人 事 |

図書館用電算機はACOSシステム450と決定

全国を網羅する「学術情報ネットワーク」構想の中で、地域センターとしての中核的な役割を負うものとして、全国センターの設置に先駆け、昭和57年度予算で導入することの内示を受けていた図書館用電算機の機種は、図書館長の下に設けられた「大阪大学附属図書館電子計算機機種選定委員会」で慎重に調査検討された結果、このたび日本電気KK製ACOSシステム450をセンターシステムとすることに決定した。

この機種選定委員会は次の委員で構成された。(○印 委員長)

豊中地区 ○宮原秀夫助教授(基礎工学部・情報処理教育センター) 大坪久夫助教授(理学部物理学科)
 中之島地区 井上通敏講師(医学部第一内科) 速水昭宗講師(歯学部放射線科)
 吹田地区 真田英彦助教授(工学部情報工学科) 横山正明助手(工学部応用科学科)

この委員会における検討経緯及びシステム構成などについては、附属図書館長から図書館委員会へ報告されるはずであり、本誌次号以降で具体的に説明の予定であるが、概略はCPU 6MB, DISK 7GB, 40端末の規模である。

去る6月17・18日に松本市で開催された「第29回国立大学附属図書館協議会総会」において、名古屋大学・九州大学及び本学を加えた大学図書館におけるコンピューターネットワークに関する「調査研究班」を設置することになった。これは大学図書館に導入されるハード及びソフトのコンピューターシステムを共同利用の資源として把えようとするもので、電算機の利用方式も自大学のためだけの形から、広く協力する方式へと変わりつつある。

図書館としては、この電算機システムの設置の目的に副うことは、即ち図書館サービスの向上にあると把えている。電算機システムを用い、高度な図書館サービスを提供できる“神経”を、全学的に隅々まで及ぼしたいと思う。広く、ご理解とご支援をお願いします。

附属図書館薬学部分館27年

北 川 勲

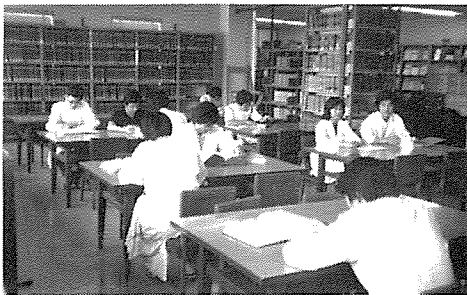
薬学部が蛍ヶ池から現在の吹田キャンパスに移転したのは昭和50年の春で、以来7年余は瞬く間に過ぎた感がある。しかし、その後の吹田第二団地においては、人間科学部の設立、事務局の移転、さらに現在は歯学部およびその附属病院が建設中と、広大な敷地のキャンパス整備が着々と進行し、漸く活気が漲ってきた。

薬学部移転に伴って、勿論薬学部分館も現在地に移っているが、薬学部附属図書館分館が設置されたのは、昭和30年9月附属図書館規定が制定されて以来のことで、約27年前に遡る。27年というのは、世間的な意味では決していい区切りとはいえないが、この機会に、全学10学部の中でも2学科13講座という小さな世帯の薬学部にも、分館が設置されて今日に至った経過を簡単に記しておきたい。

昭和24年5月医学部に薬学科が設けられた際、当時蛍ヶ池にあった大阪薬学専門学校の校舎が国に官立移管されるとともに、その蔵書が大阪大学に寄附され、大阪大学附属薬学専門部および医学部薬学科の2本立てで、大阪大学附属薬学専門部図書室が発足した。

薬学科3年次学生が教養部から進学した昭和26年4月には、組織は大阪大学医学部図書分館の薬学科分室となった。その後、昭和30年7月医学部薬学科から薬学部としての分離独立に際して、附属図書館薬学部分室となり、上述のように、同年9月の新規定の制定で、大阪大学附属図書館薬学部分館と改称され現在に至っている。

分館発足当時は、閲覧室30㎡(25席)、書庫75㎡、事務室30㎡の計135㎡、和書2,472、洋書2,511の蔵書計5,983冊の規模にすぎなかったが、その後、薬学部構成員一丸となった努力で、



漸次充実が計られてきた。そして、利用者の増加に伴い手狭となったので、昭和40年10月には拡張改築が行われ、蛍ヶ池キャンパス時代に薬学部分館が完成した。閲覧室127㎡(35席)、夜間閲覧室33㎡(16席)、書庫107㎡(16席)、保存書庫25㎡、複写室26㎡、事務室18㎡の計336㎡の面積に、和書5,034、洋書5,208の蔵書計10,242冊の規模であった。

石橋キャンパスから離れた位置にあった薬学部の立地条件に対する全学の御理解と、薬学部構成員のたゆまぬ運営努力で、小なりとはいえ充実した今日の薬学部分館になった。移転後は、閲覧室174㎡(50席)、雑誌書庫94㎡、単行本書庫22㎡、複写室18㎡、事務室35㎡、更衣室6㎡の計349㎡の面積に、和書10,862、洋書16,131の計26,993冊の蔵書(56年度)になり、昭和30年発足当時に比し、面積で約2.6倍、蔵書数で約4.5倍の成長である。さらに、情報化社会を反映して蔵書数は増加の一途を辿っており、書庫が益々手狭になってゆく状況にある。

新産業革命の時代といわれている今日、驚異のテンポで技術革新が進んでいる。中でも、遺伝子組み替え技術を駆使したバイオテクノロジーの目覚ましい発展と並んで、エレクトロニクスの進歩に伴うコンピュータの発達も、その双壁にあげられている。このような状況の中、過去、現在、未来、数多くの情報提供を主務とする図書館活動は、情報化社会の中で益々そ

の重要性を増してくる。急増する情報に対処して、その機能を存分に発揮するために、コンピュータの活用が急速に普及している時代である。

実験科学の分野にいる私達にとって、コンピュータによって容易に情報蒐集できるのは大へん有難いことである。整理されたデータを手許に研究活動をスタートできるのは大きな安心感であって、創造的な研究を進めてゆくための確かな土台が得られるような気がする。そして、情報システムがさらに進んで、これまで私達が手作業で行っていた文献情報の整理をコンピュータにまかせて、より創造的な仕事に専念できる私達の今後は一層バラ色に見える。

しかし、このように世はあげてコンピュータ化の流れの中にあって、私自身はというと、限度をこえた数の新着文献のチェックに追われる毎日に未だに身を委ねている。余りにも容易に情報が入手されれば、かえって、情報検索にふり廻されはしないかと、言訳がましい気持ちの毎日でもある。そして一方では、そろそろコンピュータ文化が人間社会にもたらす弊害について真剣に検討をはじめてもよい時期ではないかとも思っている。

情報化社会の進展と人間疎外は、これまでのところコンピュータ文化の持つ両面の端的な現れのように思われる。例えば、何となく燃えない、醒めた昨今の学生気質は、マークシート方式の入試に全く無関係と言い切れるだろうか。現代のように、能率と利便さばかりを求めてゆくと、かつての高度成長時代の付けを払わされている今日のように、私達の今後にかの付けが来はしないだろうか。

薬学部分館27年の歩みを振り返るうちに、特に急増してゆく蔵書（情報）の整理から、コンピュータ文化にふり廻されてゆく宿命にある私達の今後に、少し想いをめぐらせる次第である。
(薬学部分館長・教授)

昭和56年度貸出統計から

大阪大学全学の貸出統計は第1表のとおりですが、本館の貸出が、ここ数年順調に伸びています。

この間、図書館では、学生用図書費の増額、教養図書選書体制の強化、不明図書・欠落図書の調査・補充、学生希望図書の受付等の開架図書の整備、大型コレクションの購入、書庫棟増築に伴う学部からの図書搬入、旧南北校蔵書を中心とした再整理等の書庫内図書の整備に努めてまいりました。また、ブックディテクション装置導入により図書館員・利用者とも、図書の所在調査に惑わされることも減ってきています。これらの成果が、順調に貸出に反映してきたと考えられます。

最近の本館貸出統計をまとめて紹介し、利用の傾向を探ってみたいと思います。〔第2～4表参照〕 昭和56年度の統計の特徴として次の3点が挙げられます。

第1表 貸出件数の推移

年 度	50	51	52	53	54	55	56
全 学	貸出人数	98,241	109,062	112,936	114,254	117,151	110,881
	冊数	152,423	175,443	184,001	187,176	199,802	187,956
本 館	貸出人数	23,282	26,285	27,557	28,434	26,626	30,114
	冊数	51,776	59,924	63,927	69,379	74,186	80,114
館	冊数指数	100	116	123	134	143	154
							174

第2表 56年度
月別貸出冊数

月	貸出冊数
4月	5,236
5月	8,401
6月	8,755
7月	6,174
8月	1,895
9月	8,450
10月	8,835
11月	7,922
12月	9,156
1月	8,920
2月	12,222
3月	3,994
合計	89,961

(1) 製本雑誌の利用が、前年度の倍近くに伸びていること。

(2) 院生・教職員の利用が伸びていること。

(3) 学部学生の利用が、教養部学生の利用を上まわったこと。

(1)(2)は、書庫棟増築に伴う製本雑誌の搬入が大きな要因です。(3)は、豊中地区の学生構成を考えると、予想外の結果に思えますが、ここ数年学部学生の利用の伸びが大きく、しだいに差が縮まっていたものが逆転したものです。工学部・人間科学部等、他地区の利用もかなりあることがわかります。

また毎年の傾向ですが、月別では、試験期、2月の貸出冊数が目立ちます。主題別では、自然科学(400)、社会科学(300)、が1・2位、ことに、自然科学部門の比率は、年々上昇しています。学部別では、法・経済学部の社会科学部門、および理・工・基礎工学部の自然科学部門の利用が目立っています。

年間貸出冊数は、このままでは、10万冊に達する勢いで、国立大学附属図書館の中ではトップクラスの数字です。貸出が利用のすべてではありませんが、利用者のさまざまな要求に対応する、蔵書の質と量を今後充実させることによって、まだまだ伸びると思われます。研究・教育に対応できる図書・資料充実のため、全学の協力をお願いいたします。

(閲覧第一掛)

第3表 資料タイプ別 貸出冊数 56年度本館 (機械処理分)

部局 身分	資料 タイプ	単行本		製本雑誌		合計	%
		和	洋	和	洋		
文	教養	2,457	36	13	0	2,506	
	学部	6,171	294	423	29	6,917	
	院生	3,052	339	226	149	3,766	
	教職	1,043	168	61	14	1,286	
	計	12,723	837	723	192	14,475	17.4
人間	教養	2,676	7	9	0	2,692	
	学部	1,552	5	40	1	1,598	
	院生	348	19	12	0	379	
	教職	125	9	14	0	148	
	計	4,701	40	75	1	4,817	5.8
法	教養	2,985	18	14	0	3,017	
	学部	8,234	26	976	1	9,237	
	院生	268	27	36	0	331	
	教職	247	3	17	0	267	
	計	11,734	74	1,043	1	12,852	15.5
経済	教養	2,215	10	4	0	2,229	
	学部	3,213	51	51	0	3,315	
	院生	366	180	18	2	566	
	教職	127	34	2	0	163	
	計	5,921	275	75	2	6,273	7.6
理	教養	5,157	78	12	16	5,263	
	学部	5,504	62	50	149	5,765	
	院生	490	16	28	161	695	
	教職	217	8	13	109	347	
	計	11,368	164	103	435	12,070	14.5
工	教養	8,362	44	13	0	8,419	
	学部	3,126	15	10	11	3,162	
	院生	366	2	46	2	416	
	教職	27	0	7	1	35	
	計	11,881	61	76	14	12,032	14.5

部局 身分	資料 タイプ	単行本		製本雑誌		合計	%
		和	洋	和	洋		
基礎工	教養	5,689	22	24	10	5,745	
	学部	5,669	16	60	94	5,839	
	院生	985	44	96	292	1,417	
	教職	600	26	29	108	763	
	計	12,943	108	209	504	13,764	16.6
医	教養	1,980	12	3	1	1,996	
	学部	226	0	1	0	227	
	院生	0	0	0	0	0	
	教職	2	0	0	0	2	
	計	2,208	12	4	1	2,225	2.7
歯	教養	863	6	0	0	869	
	学部	191	0	2	0	193	
	院生	0	0	0	1	1	
	教職	0	0	0	0	0	
	計	1,054	6	2	1	1,063	1.5
薬	教養	1,675	1	4	0	1,680	
	学部	277	3	1	0	281	
	院生	0	0	0	0	0	
	教職	0	0	0	1	1	
	計	1,952	4	5	1	1,962	2.4
医短	学生	302	0	5	1	307	
	教職	17	0	0	0	17	
	計	319	0	5	1	325	0.4
その他教職		710	21	33	34	798	1.0
研究生、聴講生		322	4	7	1	334	0.4
総計		77,836	1,606	2,361	1,187	82,990	100
%		93.7	1.9	2.8	1.4	100	
身分別小計	教養	34,361	234	101	27	34,723	41.8
	学部	34,163	472	1,614	285	36,534	44.0
	院生	5,875	627	462	607	7,571	9.1
	教職	3,115	627	177	267	3,828	4.6

第4表 部局別・主題別 貸出冊数 56年度（機械処理分）

主題	部局	文	人	法	経	理	工	基	医	歯	薬	医短	教養	その他	計	%
000	総記	933	332	551	347	388	593	583	135	23	142	48	15	77	4,167	5.3
100	哲学・宗教	1,887	1,106	203	135	211	356	358	75	30	31	23	6	11	4,432	5.6
200	歴史・地理	2,442	176	462	340	163	342	183	22	6	32	20	14	77	4,279	5.4
300	社会科学	1,423	1,899	9,788	3,977	327	865	640	202	65	58	35	5	98	19,382	24.5
400	自然科学	290	665	169	680	9,359	6,813	8,868	1,509	753	1,501	164	43	47	30,861	39.0
500	工学	81	29	117	69	538	1,769	1,476	43	21	18	19	8	22	4,210	5.3
600	産業	100	14	40	139	8	30	14	3	0	2	0	1	2	353	0.4
700	芸術・体育	992	151	95	79	156	375	212	47	44	26	5	4	34	2,220	2.8
800	語学	1,261	95	81	59	56	109	133	20	16	9	0	7	14	1,860	2.3
900	文学	4,158	342	338	404	333	694	594	164	102	137	5	39	153	7,462	9.4
総計		13,565	4,809	11,844	6,229	11,538	11,946	13,061	2,220	1,060	1,956	319	142	535	79,226	100

昭和56年度 国立大学等図書館間文献複写実績について

昭和56年度下半期（56年9月～57年3月）の複写データ処理結果を4月末に文部省及び各大学図書館等に送付した。総件数は約68,700件で、前年同期（昭和55年度下期）との比較では約7,800件増加しているが、昭和56年上半期に比べると約300件の減少となり、昭和54年度現行システムになって以来、初めて前回半期件数を下回った。

年度合計では昭和54年度97,000件（指数100）、昭和55年度120,500件（124）、昭和56年度137,000件（142）の推移になっている。昭和56年度、大学図書館の依頼、受付館単位の1館あたり年間依頼件数は平均521件、受付件数は809件であった。

大阪大学における3年間の実績は下記の通りである。

大阪大学附属図書館・依頼・受付件数

(件)

文献複写 館名	依 頼									受 付		
	昭和54年度			昭和55年度			昭和56年度			昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度
	校費	私費	合計	校費	私費	合計	校費	私費	合計			
本館	133	116	250	130	249	379	204	209	413	1,014	※ 921	1,466
中之島分館	11	524	535	18	488	506	21	393	414	5,141	7,321	9,346
吹田分館	352	4	356	400	28	428	280	19	299	584	798	945
薬学部分館	55	28	83	84	66	150	102	69	171	193	144	198
人間科学部分室	86	42	128	106	106	212	92	94	186			
理学部分室	155	5	160	174	11	185	219	32	251	710	906	1,021
基礎工学部分室	275	0	275	241	0	241	361	1	362	※	473	724
微研分室	29	50	79	14	22	36	64	19	83			
産研分室	38	0	38	44	0	44	24	0	24			
蛋白研分室	32	0	32	44	0	44	51	0	51			
医短図書室	24	0	24	39	0	39	40	0	40			
合計 (対昭和54年度比)	1,191	769	1,960 (100)	1,294	970	2,264 (115.5)	1,458	836	2,294 (117.0)	7,642 (100)	105.63 (138.2)	137.00 (179.3)

※ 昭和55年度から基礎工分室が受付館となったため

海外文献複写の依頼・受付

昭和56年度の海外文献複写依頼及び受付件数と内訳は別表のとおりです。本館ではドイツの学位論文請求が多くこれらを、学位授与大学に複写依頼した以外は、昨年と比較して、特に目立ったことはありません。（参照 Vo1.15, No.2 1981.6 p.4）

依頼先中、BLLDの謝絶が多いのは所在確認をしないで依頼しているためで、英国内の他図書館から提供してもらえることもあり、謝絶数が多いのは、やむをえないと考えています。本館は海外からの複写申込も受付ていますが、海外機関からの受付中の謝絶原因は、典拠としている、Chemical Abstracts Service Source Indexでは継続受入になっているが、事実は次号であったのが4件、Indexにないものを依頼されたのが19件、Indexの記載誤り1件です。なお、大阪大学関係者の書かれた論文についての複写依頼は21件でした。

I-1 海外複写依頼

区 分	複写依頼件数	内 訳			
		B L L D		そ の 他	
本 館	228	112	入手 67 謝絶 45	116	入手 69 謝絶 10
中之島分館	96	68	入手 48 謝絶 15	33	入手 23 謝絶 10
吹田分館	49	33	入手 27 謝絶 6	16	入手 14 謝絶 2

I-2 海外複写依頼（本館）

国 名	依頼件数	内 訳			謝 絶	未 着	入手までの日数
		雑誌	単行書	学位論文			
B L L D	112	111	0	1	45	0	31
イギリス	28	2	26	0	2	1	105
アメリカ	6	4	1	1	2	2	96
ドイツ	38	12	15	11	3	11	72
フランス	28	13	15	0	3	12	257
韓国	8	0	8	0	0	8	—
イタリア	2	0	2	0	0	0	74
スペイン	1	0	1	0	0	1	—
ルーマニア	1	0	1	0	0	0	65
フィリピン	1	1	0	0	0	1	—
アイルランド	3	0	0	3	0	0	139
合 計	228	143	69	16	55	36	

II-1 海外文献複写受付資料タイプ別

発行国	資料タイプ	大学紀要	学位論文	学協会誌	商業誌	民間企業誌	国公立機関紀要	計
		学位論文						
国 内		40	67	12		16	10	145
国 外		6	1	1		0	0	8
合 計		46	68	13		16	10	153

II-2 海外文献複写受付（国別）

国 名	申 込 機 関 タ イ プ				
	大 学 図 書 館	国 立 機 関	民 間 機 関	謝 絶	合 計
アメリカ	15	4	68	15	102
カナダ	3	2	4	1	10
イギリス			1		1
フランス	1			1	2
ドイツ		1	2		3
スイス			2		2
デンマーク		1	6	3	10
スウェーデン		2	1	1	4
ノルウェー		1			1
ハンガリー	1				1
ベルギー		1			1
イタリア				1	1
韓国	3				3
タイ			1		1
トルコ		2			2
オーストラリア	1		3	1	5
アルゼンチン			1		1
ブラジル	1		1		2
南アフリカ				1	1
合 計	25	14	90	24	153

教官著作寄贈図書

——本 館——

山口恵照(文・名誉教授)

サーンキャ哲学体系序説 山口恵照著
(あぼろん社 昭39)

サーンキャ哲学体系の展開 山口
恵照著 (あぼろん社 昭49)

木村重信(文・教授)

ヴィーナス以前(中公新書 641) 木村
重信著 (中央公論社 昭57)

山崎正和(文・教授)

山崎正和著作集 3～5、7～9、11巻
山崎正和著 (中央公論社 昭56)

浜口恵俊(人・助教授)

日本人の間柄(現代のエスプリ No.178)

浜口恵俊[編集・解説](至文堂 昭57)

間人主義の社会 日本 浜口恵俊著

(東洋経済新報社 昭57)

中部インド岩壁画の諸問題 木村重信著

(大阪大学文学部 昭57)

久貴忠彦(法・教授)

民法 親族・相続(基本判例双書)

好美清光、久貴忠彦[共]著

(同文館 昭57)

宮本又次(経・名誉教授)

町人社会の人間群像 宮本又次著

(ぺりかん社 昭57)

向井利昌(経・講師)

現代資本主義と階級 向井利昌著

(新評論 昭52)

千原秀昭(理・教授)

化学構造検索の実用化に関する研究

千原秀昭(代表) (文部省科学研

究費補助金試験研究Ⅰ研究班 昭57)

増淵正美(工・教授)

関数解析による最適理論 Luenberger,

D.G著 増淵正美、嘉納秀明[共]訳

(コロナ社 昭55)

永島大典(言・教授)

英語史 Baugh, A.C.& Cable, Th. 著

永島大典[他]訳 (研究社出版 昭56)

——吹田分館——

小松定夫(工・教授)

構造解析学Ⅰ小松定夫著 (丸善 昭57)

滑川敏彦(工・教授)

信号検出理論 J.ハンコック[他]著

滑川敏彦[他]共訳 (森北出版 昭49)

増淵正美(工・教授)

自動制御基礎理論[改訂] 増淵正美著

(コロナ社 昭56)

尾崎 弘(工・教授)

過渡現象論 尾崎 弘著

(共立出版 昭57)

塩川二郎(工・教授)

化学センサー 塩川二郎[他]編著

(講談社 昭57)

榎木 享(工・教授)

漂砂と海岸侵食 榎木 享著

(森北出版 昭57)

末石富太郎(工・教授)

環境学への道 末石富太郎著

(思考社 昭57)

寺田浩詔(工・教授)

暮らしと機械の頭脳 寺田浩詔編

(講談社 昭56)

オフィスオートメーション 寺田浩詔

[他]共著

(大阪書籍 昭57)

いちよう祭展示会開催

本学の創立記念日を祝して、「大阪大学いちよう祭」が、4月30日(金)と、5月1日(土)にかけて盛大に開催された。5月1日(土)には、いちよう祭講演会、吹田・豊中両地区の学内施設開放、展示会、映画会等が開催された。

図書館では、文学部・法学部・経済学部・附属図書館共催による展示会が開かれた。この展示会は、1日(土)午前11時から、午後4時まで、本館第2自由閲覧室(3階)を会場にして、学生・父兄および、教職員等、約400名の参観者があり、盛況のうちに終了した。

なお、展示会では、関係学部等の所蔵する貴重な図書資料が展示された。主な展示品は次のとおりである。

- 文学部 1. 懷徳堂関係資料(懷徳堂幅、他19点) 2. 考古学資料 ①大阪府柏原市ヌク谷北古墳出土品ほか4市 ②古代寺院出土瓦 3. 俳諧刷物(木版刷)
- 法学部 1. 林子平「海国兵談」(1791年) 2. 「新律綱領、改定律例対比合巻」(1874年) 3. 西周「万国公法」(1868年) 4. ヨーロッパ法学上の古典五種。ルソー「社会契約論」(1762年の初版本)ほか 4種、5. その他資料(佐賀征討戦記ほか3点)
- 経済学部 1. 大坂三郷の水帳および附図 2. 鴻池善右衛門家「掛合控」 3. 鴻池善右衛門家米取引関係証文 4. 大坂の両替商富子助右衛門家「勘定帳」 5. 大坂の預り手形 6. 播州農村文書
- 附属図書館 西洋古版地図上の日本(サンソン「シナ図」ほか29点)
- いちょう祭委員会 本学関係の文化勲章受章者(13人)の業績顕彰

■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■

—— 附属図書館中之島分館運営委員会 ——

57. 3. 5(金) 15:00~16:30 (中之島分館会議室)

報告事項 中之島分館図書選定小委員会の開催結果について報告があった。

協議事項 1. 歯学分室暫定設置計画(案)について質疑応答のうち承認された 2. 時間外開館について原案通り承認された。

—— 分 館 長 会 議 ——

57. 3. 19(金) 13:00~14:00 (館長室)

報告事項 1. 特別図書購入費について 2. 大阪大学学術情報問題懇談会について 3. 図書館電算機機種選定委員会についてそれぞれ報告があった。

協議事項 1. 昭和57年度図書館事業費(案)について種々協議の結果一部修正し、ほぼ原案どおり要求することとなった。2. 昭和58年度図書館新規概算要求の追加について協議の結果原案どおり承認された。3. 歯学部移転に伴う歯学分室の暫定設置計画(案)について、種々協議の結果一部修正し、図書館委員会に諮ることとした。

—— 附属図書館豊中地区運営委員会 ——

57. 3. 23(火) 13:55~14:45 (本館会議室)

報告事項 1. 夜間開館時間の延長について 2. 図書館電算機借科及び導入経費について 3. 本館書庫内への複写機の設置について 4. 本館書庫棟増築に伴う書庫内の移動及び各学部からの図書返却について 5. 本館閲覧室のカーペット敷設について、それぞれ報告があった。

協議事項 1. 基本参考図書について資料にもとづき説明、検討の結果原案どおり要求することとなった。2. 次期豊中地区運営委員長の選出について、矢崎委員長の任期満了に伴う後任者の選考について投票の結果、経済学部大澤豊教授が次期豊中地区運営委員長に決定し承認された。

—— 図 書 館 委 員 会 ——

57. 3. 23(火) 15:00~17:00 (本館会議室)

報告事項 1.中之島分館長の選出について、北村分館長の任期満了にともない医学部後藤稠教授が任命された。2.豊中地区運営委員の選出について、矢崎委員長任期満了にともない経済学部大澤豊教授が選出された。3.昭和56年度図書館関係予算の配分について 4.図書館電算機借料及び導入経費について 5.大阪大学学術情報問題懇談会について 6.図書館電算機機種選定委員会について 7.本館及び中之島分館の夜間開館時間の延長等について報告があった。

協議事項 1.昭和58年度図書館新規概算要求について 2.昭和57年度図書館事業費予算要求書(案)について 3.歯学部移転に伴う歯学部部分室の暫定設置計画(案)について、種々協議の結果原案通り承認された。

■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■

- 57. 3. 5. 中之島分館運営委員会 (中之島分館)
- 57. 3. 10. 第18回国公立大学図書館協力委員会文献複写委員会 (なにわ会館)
- 57. 3. 18. 「学術雑誌総合目録データベースの開発とオンライン利用」研究会 (東京大学)
- 57. 3. 19. 分館長会議 (本館)
- 57. 3. 23. 豊中地区運営委員会 (本館)
- 57. 3. 23. 図書館委員会 (本館)
- 57. 3. 25. 日本図書館協会評議員会 (日本図書館協会)
- 57. 3. 26. 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会 (京都大学)
- 57. 4. 20. 第19回国公立大学図書館協力委員会文献複写委員会 (関西大学)
- 57. 4. 23. 近畿地区国立大学図書館協議会 (京都大学)
- 57. 5. 18. 第20回国公立大学図書館協力委員会文献複写委員会 (関西大学)
- 57. 5. 19. 昭和56年度国立大学図書館協議会第3回常務理事会 (東京大学)
- 57. 5. 20. 昭和56年度国立大学図書館協議会第3回理事会 (東京大学)
- 57. 5. 20. 昭和57年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会：東西地区専門審査委員会 (東京大学)
- 57. 5. 21. 昭和57年度国立大学附属図書館事務部課長会議 (東京医科歯科大学)
- 57. 5. 22. 外国雑誌センター館打合せ会 (東京工業大学)
- 57. 5. 22. 第9回国公立大学図書館協力委員会 (慶応義塾大学)

■■■■■■■■ 館内の動き ■■■■■■■■

夜間開館の実施状況と放送テープ

4月から夜間開館は従来の午後7時までを9時まで、土曜日は午後3時までを5時まで延長した。これまでの利用状況は予想をかなり上廻り、5月の平均利用人数は午後7時過ぎで71人、8時過ぎで55人が在館しており、これだけの利用者が図書館を常時、熱心に勉学・研究に利用していることになる。1階開架図書約8万冊と2階参考図書約1万冊は閉館時まで、LL (Language Laboratory) は閉館30分前まで利用できる、今後とも図書館を利用し、役立てていただくことを望んでいる。

なお、6月から閉館時間、貸出時間等のお知らせや、盗難防止の注意を呼びかける自動スポット放送テープを使って館内放送をおこなっている。

カード方式による複写について

本館書庫出入口に磁気カードを入れることによって始動する電子複写機を設置し、3月末に

豊中地区の部局（文、法、経、理、基工、教養、言文、健体）の各講座に利用案内を出した所、134講座から申込があった。貸出手続や複写手順が不用のため好評で、よく利用されている。経費については四半期毎に校費移算することになっている。

人 事

- | | | | |
|------------|-----|------|------------------------------------|
| 57. 4. 1. | 昇 任 | 砂本 真 | 熊本大学事務部長（整理課長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 雨森弘行 | 整理課長（横浜国立大学附属図書館整理課長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 永芳弘武 | 九州大学整理課長（閲覧課長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 十川一登 | 閲覧課長（岡山大学附属図書館整理課長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 富田一男 | 社会経済研究所庶務掛長（整理課庶務掛長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 澤島好利 | 整理課庶務掛長（医学部附属病院医事課入院掛長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 尾崎一雄 | 吹田分館運用掛長（医学情報課運用掛長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 茂幾周治 | 整理課受入掛長（医学情報課目録掛長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 谷田 功 | 閲覧課閲覧第二掛長（整理課受入掛長） |
| 57. 4. 1. | 転 任 | 岩本速雄 | 医学情報課受入掛長（滋賀医科大学教務部図書館課運用掛長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 清水義子 | 医学情報課目録掛長（吹田分館目録掛長） |
| 57. 4. 1. | 配置換 | 岩井 勇 | 医学情報課運用掛長（閲覧課閲覧第二掛長） |
| 57. 4. 1. | 転 任 | 泉 文雄 | 吹田分館目録掛長（国立民族学博物館情報管理施設資料室文献図書係長） |
| 57. 4. 1. | 転 任 | 近藤勝一 | 国立民族学博物館情報管理施設資料室文献図書係長（医学情報課受入掛長） |
| 57. 4. 1. | 昇 任 | 小山靖裕 | 滋賀医科大学教務部図書館課運用掛長（整理課和漢書目録掛主任） |
| 57. 4. 1. | 昇 任 | 岩本 博 | 福井医科大学図書課管理係長（医学情報課） |
| 57. 4. 1. | 転 任 | 奥田正義 | 整理課和漢書目録掛（広島大学附属図書館整理課目録係） |
| 57. 4. 1. | 採 用 | 高見昌利 | 医学情報課運用掛事務補佐員 |
| 57. 4. 1. | 採 用 | 山田まり | 医学情報課運用掛事務補佐員 |
| 57. 4. 1. | 採 用 | 池田三郎 | 医学情報課運用掛事務補佐員 |
| 57. 4. 1. | 採 用 | 枝川 登 | 閲覧課参考掛事務補佐員 |
| 57. 4. 12. | 採 用 | 松屋清一 | 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員 |
| 57. 4. 12. | 採 用 | 浅井伸夫 | 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員 |
| 57. 4. 12. | 採 用 | 中村 孝 | 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員 |
| 57. 4. 12. | 採 用 | 杉山一也 | 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員 |
| 57. 5. 1. | 配置換 | 川口 勝 | 微生物病研究所経理課経理掛予算主任（整理課会計掛用度主任） |
| 57. 5. 1. | 配置換 | 竹綱利一 | 整理課会計掛主任（レーザー核融合研究センター業務第二掛主任） |

訂正 前号（Vol. 16, No. 1 1982. 4）5頁、「教官著作寄贈図書」理学部分室 Stochastic Differential Equations and Duffusion Processes. （Kodansha 1981）の寄贈者名 池田信行（理・教授）、渡邊 毅先（理・教授）の渡邊 毅先生の記載は誤りでした。お詫びして訂正いたします。